



① 日本国特許庁

公開特許公報

昭和48年5月8日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1 発明の名称

コークガイド車における安全構

2 発明者

住所 福岡県飯塚市大字串裏119番地
氏名 内田 俊 基

3 特許出願人

住所 福岡県飯塚市大字串裏215番地
名称 株式会社 串裏工作所
代表者 青木 正 夫

4 代理人

郵便番号 810
住所 福岡市中央区大名2丁目3番1号
氏名 (5171) 弁護士 岸 正 雄
(ほか1名)

① 特開昭 50-638

④ 公開日 昭50.(1975) 1. 7

② 特願昭 48-50924

② 出願日 昭48.(1973) 5. 8

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

⑤ 日本分類

6249 22

89(1)E2/2

明 細 書

1 発明の名称

コークガイド車における安全構

2 特許請求の範囲

コークガイド車2においてガイドシールド3の通路5の両側に通行遮断機7、7を設け、両遮断機7、7に開動作方向に遊動自在で閉動作方向に逆止装置11、12を設けた開閉構6を設け、逆止装置操作キー15を離脱自在に形成し、かつ上記構6が開いた際開路し、閉じた際閉路するガイドシールド移動用リミットスイッチ17を設けてなる安全構。

3 発明の詳細な説明

本発明はガイドシールドの通路の両側に通行遮断機を設け、両遮断機に開動作方向に遊動自在で閉動作方向に逆止装置を設けた開閉構を設け、逆止装置操作キーを離脱自在に形成し、かつ上記構が開いた際開路し、閉じた際閉路するガイドシールド移動用リミットスイッチを設けてなるコークガイド車における安全構に関

するものである。

コークス炉1に附設されたコークガイド車2においてコークガイド車2上の通行ができるようにガイドシールド3に自動扉4を設けている。この扉4は作業性からは便利であるがガイドシールド3がコークス炉1に向つて前進後退する際扉4は自動的に開閉する構造になつてゐるためコークガイド車2上の通行および保全上危険である。本発明はこの危険性を解消するためガイドシールド3の通路5の両側に開閉自在の安全構6を設け、両側の構6が開いている場合はガイドシールド3は自由に前進後退できるが片方又は両方の構6、6が開いている場合はガイドシールド3を移動し得ないインターロックを構6、6から電気的にとることにより上記通行および保全上の危険性を除いたものである。

本発明を図面に示す実施例について説明すると、コークガイド車2において、ガイドシールド3の通路5の両側に通行遮断機7、7を設けるものである。両遮断機7、7はそれぞれ立柱